チェルノブイリの子どもたち

チェルノブイリ子ども基金　NEWS No.131　2025年6月27日発行

「ウクライナ・オヴルチ子ども芸術アカデミー絵画展」

無事閉幕

2025年2月17日～3月1日　東京都千代田区
3月11日～3月24日　愛知県瀬戸市

（詳細は本文 p. 2～4）

上：東京会場　下：瀬戸会場

①

②

③

～　展示作品より　～

① **『春がやって来た、花を連れてきた』**
アンナ（10歳）

② **『戦争と平和』**ミコラ（17歳）

③ **『やさしい夏』**ソフィヤ（10歳）

＊＊＊　目次　＊＊＊

p.2～4 オヴルチ子ども芸術アカデミー絵画展
p.5　修復された2枚のガラス絵
p.6　ウクライナ・内分泌研究所／ナロジチ・リツェイ
p.7　2025年夏の保養の計画
p.8～9　ウクライナからの便り
p.10～11 チェルノブイリの歌声
p.12　ベラルーシ・子どもセンター「ナデジダ」
p.13　募金・救援状況
p.14　事務局から

ウクライナ「オヴルチ子ども芸術アカデミー」絵画展の報告

子ども基金が支援を続けているウクライナ「オヴルチ子ども芸術アカデミー」に通う子どもたちの絵画展が 2025 年 2 月から 3 月にかけて、東京都内と愛知県内の 2 つの会場でで開催されました。

～＊～～＊～～＊～～＊～～＊～～＊～～＊～

戦禍の子どもたち ～ウクライナの絵画展～

共催：東京新聞（中日新聞東京本社）
　　チェルノブイリ子ども基金
協力：非核・平和を求める写真・絵画展事務局
2/17～3/1 東京新聞（中日新聞東京本社）ロビー
　　（東京都千代田区）

「オヴルチ子ども芸術アカデミー」の子どもたちが描いた絵 43 枚が展示されました（写真右上）。31 枚は水彩画と色鉛筆で描かれた絵、12 枚はアクリル絵の具で描かれたガラス絵でした。絵の他に、子ども基金の活動を紹介するパネルなども展示されました。約 460 人の方にご来場いただき、会場で販売した「2025 年救援カレンダー」の売り上げと会場募金の合計は 13 万円を超えました。ご来場いただいたみなさま、本当にありがとうございました。

アンケートには多くの方から感想をいただきました（p.10～11 参照）。「胸がいっぱいで書くことができない」という方、色々な思いをお話しする方もおられました。北海道、沖縄県、滋賀県、山梨県など遠方からもご来場いただきました。

東京新聞には絵画展の告知記事、開催中の様子、終幕の記事、さらにガラス絵修復の記事が掲載されました（p.4～5 参照）。記事の画像は子ども基金のブログに掲載しています。新聞の記事を見ていらした方、子ども基金のニュースレターを見て、友人から紹介されてという方もいらっしゃいました。

展示の設置、撤収作業、開催中の会場当番を含め、16 人のボランティアの方にご協力をいただきました。ありがとうございました。また絵画展開催にご協力いただいた下記のみなさまにも心よりお礼を申し上げます。

（一社）ヒューマニタリアン・サポーツ　代表理事 木村真三 様／写真家 黒崎彰 様／日比谷中日ビル 様（順不同）

戦禍の中のウクライナ・子どもたちの絵画展

主催：非核・平和を求める写真・絵画展事務局
協力：チェルノブイリ子ども基金
3/11～3/24 市民交流センター（愛知県瀬戸市）

会場は瀬戸駅の前、図書館の分室も同じ階にある広い市民交流センターの壁面です。多くの方が立ち止まってじっくりと鑑賞をされていました。感想文は、戦時下の中で一生懸命描いてくれたウクライナの子どもたちの思いをしっかり受け取り、平和への強い願いを深く感じるものばかりでした。その中に少女と少年のたどたどしい感想文を見つけ、思いもかけないことでしたので、胸が熱くなりました。

●わたしは、せんそうという作ひんで、せんそうをしちゃいけないと思います。なので早くせんそうをおわってほしいです。（8 歳）
●ガラス絵がとてもきれいだった。おびえている絵があったのでそれが伝わった。戦争のこわさがわかった。（11 歳）

この絵を見た子どもたちが、いつか平和の為の行動を起こすことがあるかもしれません。どうしようもない、今の状態に、息苦しいなかで生活している私たちに、わずかでも希望の未来を感じさせてくれました。（杉浦展子）

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

★ウクライナの子どもの絵画展の開催をご検討の方は以下へお問い合わせください。
「非核・平和を求める写真・絵画展事務局」
HP https://nonukespeace.jimdosite.com/
Tel.0561-58-7568（杉浦／愛知県瀬戸市）

絵を描いた子どもたち

どのような思いで絵を描いたのか、どのような夢を持っているのか、絵画展で絵と共に紹介した説明文の中から一部を紹介します。

◆アリーナ（14 歳） 音楽教室に通っている。バイオリンを弾くこと、花の世話をすることが好き。チェルノブイリ原発事故の悲劇が繰り返されないことを願って描いた。将来はメイクアップアーティストになり、日本など外国で暮らしたい。

◆ペトロ（16 歳） 動物が大好き。戦争が終わることを願って描いた。ウクライナを再建するために建築の仕事に就きたい。

◆マリヤ（11 歳） 祖父母のことが大好きで、畑仕事を手伝っている。空襲警報が鳴らない平穏な暮らしができるよう、早く勝利を迎えてほしいと願って描いた。ウクライナ語が大好き。将来は教師になりたい。

◆キリロ（11 歳） 全ての兵士が生きて家に戻ってくることを願って描いた。故郷を守るために兵士になりたい。

◆オレクサンドラ（15 歳） ビーズで伝統的なブレスレットを作り、兵士を支援するために販売している。ウクライナ人がみな故郷に帰ってくることを願って描いた。将来はモデルになりたい。

◆ソフィヤ（9 歳） ネコと犬が好き。飼い主のいない動物の世話をしている。戦争のない春を願って描いた。将来は獣医になりたい。

◆マクシム（14 歳） 戦争後、土地の資源が回復することを願いながら描いた。生態学者になりたい。

◆アナスタシヤ（10 歳） 守護天使がいつもウクライナを護ってくれるようにと願い描いた。歌うことが好きで、音楽学校で歌を習っている。オペラ歌手になることが夢。

◆アリーナ（14 歳） 世界中で二度と戦争が起きないようにと願いながら描いた。空襲警報が止み、ウクライナの子どもたちが安心して暮らせようになることが夢。

◆ポリーナ（10 歳） 一日も早く戦争が終わり、クリスマスやお正月をみんなで楽しく祝える時のやって来ることを願って描いた。家族全員で落ち着いて平和に暮らすことを願っている。

◆アンナ（10 歳） 絵を描くことが好き。花などの植物が好きで、将来の夢は花屋さん。

◆ダリヤ（10 歳） 戦争が終わったらウクライナの子どもたちがみんな家に帰ってくることを願っている。鳥たちが他の国から戻ってくるのと同じように。看護師になることが夢。

◆ミハイロ（13 歳） 次の秋には平和が訪れることを願って描いた。母の料理の手伝いをするのが好き。将来は料理人になりたい。

ウクライナ「オヴルチ子ども芸術アカデミー」絵画展　新聞記事掲載

東京新聞に掲載された記事を紹介します。
斜体字の部分は新聞記事からの引用です。

★2025 年 2 月 14 日掲載
『ウクライナ　戦禍の子の絵画
地下の卓球台　描く平和
「絵の向こうに思いをはせて」

2 枚の絵と、オヴルチ子どもアカデミーの子どもたちが地下室の卓球台の上で絵を描いている写真、子ども基金事務局でインタビューを受けている写真が掲載。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

★2025 年 2 月 18 日掲載
『ウクライナの子　平和への願い』

ガラス絵を見ている来場者の写真が掲載。
来場者の言葉*「特にガラス絵は、子どもとは思えない素晴らしい作品ばかり。空襲警報が毎日のように出る中で、頑張っていることが分かる。戦争が早く終わってほしい」*

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

★2025 年 3 月 3 日掲載
『来場者から多くの反響』

会場の様子の写真と来場者からの子どもたちへの言葉や感想の紹介。
子ども基金の言葉*「たくさんの方に絵を見ていただき、ありがとうございました。原発事故の放射能汚染地域で暮らす子どもたちが、戦争でさらに厳しい状況にあります。平和を願い将来の夢を抱きながら懸命に生きていることを、絵を通して知ってほしいと思いました。今後の救援活動に協力いただけたら、うれしく思います」*

★2025 年 5 月 13 日掲載
『砕けた思い　真心の修復
ウクライナの子が描き　日本へ輸送中破損
ステンドグラス職人、平和の祈り込め』

「子どもたちはチェルノブイリ原発事故で残る放射能汚染と、ロシアの侵攻という二つの危険と隣り合わせ。小さな破片をつなぎ合わせる丁寧な修復作業には「平穏な暮らしを」との願いが込められている。」

本号ニュースレターp. 5 に掲載の 2 枚のガラス絵とそれを書いた子どもの写真、割れたガラス絵の修復作業の様子、ステンドグラス職人飯出さんと子ども基金スタッフが修復された絵を手にしている写真が掲載。飯出さんの思いと子どもたちからの言葉などを紹介。

東京新聞 2 月 14 日付朝刊

（基金事務局では、掲載紙の取り扱いはしていませんので、ご関心のある方は図書館などの閲覧サービスをご利用下さい。）

この度の絵画展の開催にあたっては、とりわけ東京新聞の大野記者にお世話になりました。記事の掲載だけでなく、準備段階から撤収作業に至るまでの展示全般にも直接かかわってくださるなど、さまざまな面で親身に対応して下さいました。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

修復された 2 枚のガラス絵

今回展示された 12 枚のガラス絵は、裏側からアクリル絵の具で描かれています。周りの木枠はオヴルチ子どもアカデミーで手作りされたものです。木工細工教室もあるため、このような木枠を作る工具と技術があります。ところがウクライナから東京の基金事務局への輸送中にこのうちの 2 枚が割れてしまいました。この 2 枚は、展示終了後ステンドグラス職人の手により修復が施され、このほど私たちのもとに戻ってきました。

絵画展開催中は、それでも折角の作品を多くの方に見ていただきたいと、何とかガラスの破片を並べてガラスケースに平置きにして展示しました。これを見た方からは、「割れてしまって残念でしたね」「直せたらよいのに」という声が聞かれました。私たちも何とか直せないものかと思い、ステンドグラス職人の飯出佐恵さんにご相談しました。飯出さんは「沖縄・球美の里」※にボランティアで参加されたことから、基金関係者とつながりがありました。修復をお願いしたところ、無償で引き受けてくださいました。修復されて戻ってきた 2 枚のガラス絵には欠けた部分や継ぎ目は残っていますが、それはまるで戦争で傷ついた子どもたちの心が回復していくことを象徴しているように感じられました。

飯出さんのコメント『大人の事情で原発事故が起き、戦闘が始まり、和平交渉にも大人の思惑が絡む。苦しむのはいつも子どもたち。（修復により）描いた子どもの思いを伝え続けられる」と話す（東京新聞　2025 年 5 月 13 日掲載の記事より）』

※東京電力福島第一原発事故で被災した子どもたちを受け入れている沖縄・久米島にある施設。

【左】「私の愛する菊の花」ヴィクトリヤ（11 歳）
花を描くことが好き。母や親しい人たちに自分の絵をプレゼントしている。体操を習っている。将来は体操選手になり、日本での大会に参加したい。

「私の絵が壊れてしまったことは、今ウクライナで起きているロシアが始めた戦争のことを思うと、とても象徴的なことだと思いました。割れてしまった私の絵を見た日本の人たちが、壊れたウクライナの家々、学校、幼稚園などを思い出してくれたらと思います。私の絵をつなぎ合わせてくれた日本の芸術家の方に感謝します」

【右】「夏の儀式」ソロミヤ（11 歳）
両親と暮らしている。祖父母と一緒に畑仕事を手伝うことが好き。ビーズ細工が好き。ウクライナを守る兵士たちのためにお守りを作っている。夏休みを楽しみにしている。

「私の絵を直してくれた日本の芸術家に感謝します。もう私の絵は壊れてなくなってしまったと思っていました」

ウクライナ　内分泌研究所
医薬品支援へのご協力を

甲状腺の患者の手術・治療を行っている内分泌研究所（キーウ市）に対し、子ども基金は長年にわたり医薬品や医療機器の支援を行ってきました。放射線診断・治療部門のグレヴァートゥイ医師から下記の連絡がありました。子ども基金では引き続き甲状腺患者のための薬（甲状腺ホルモン剤）の支援をしたいと考えています。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

「トロンコ所長は研究所が通常通り機能できるよう全力を尽くしています。甲状腺の手術も計画通り行われています。一方で放射線診断、治療部門のスタッフたちは異例の休暇を余儀なくされています。これは、ポーランドからの治療用放射性ヨードの供給が遅れていることによるものです。予定されていた甲状腺がん患者の検査は一時的に実施されていません。私たちはこの問題が早急に解決されることを望んでいます。

私は自分の部署の様子を見るため月曜日（6 月 16 日）から出勤しています。しかし看護部長をはじめ、他の医師や看護師たちは引き続き休暇中です。

子ども基金の支援により 2023 年 9 月に購入したチロキシン（甲状腺ホルモン剤）3,310 箱は、今の時点で在庫はありません。すべて甲状腺がんの手術を受けた患者 1284 人に投与されました。」

グレヴァートゥイ医師

手前にあるのは 2020 年に子ども基金の支援で購入した放射線線量計と個人線量計。放射性ヨード治療の際に使用されている。

ウクライナ　ナロジチ・リツェイ
チェルノブイリ事故 39 年追悼式

ジトーミル州ナロジチは、チェルノブイリ事故による放射能汚染地域にあります。子ども基金が毎年夏に行っている病気の子どものための保養プロジェクトには、ナロジチの学校からも何人か参加しています。今年（2025 年）4 月にナロジチ・リツェイで行われたチェルノブイリ追悼行事について紹介します。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

「4 月 26 日は歴史の方向を変えた日です。 39 年前、チェルノブイリ原子力発電所の事故が起きました。この事故は何百万もの人々の命、健康、そして平穏な生活を奪いました。チェルノブイリの悲劇を記憶にとどめるため、ナロジチ・リツェイの教師と生徒たちは「私たちの痛み・チェルノブイリ」と題した追悼行事を開催しました。生徒たちは人類史上最大の人災の一つである 1986 年 4 月 26 日の出来事を思い起こし、事故がウクライナと世界に与えた影響について話し合いました。そして、記憶、感謝、純粋な人々への希望を象徴する「復活の花」と名付けた白いバラを作りました。

チェルノブイリ、それは過去のことだけではありません。無責任さの代償、真実の力、そして悲劇を二度と起こさないことの重要性についても忘れてはなりません。追悼行事のテーマは、「私たちは覚えています。私たちは尊重します。私たちは守ります」。

ナロジチ・リツェイ　教師　ヤルモリュク」

＊「リツェイ」は専門分野の科目に重点を置いて履修するタイプの義務教育課程の学校です。

放射能汚染地域に住む病気の子どもたちのための保養プロジェクト
2025年夏　ウクライナ・ベラルーシ

ウクライナは戦争の終わりが見えません。またその影響でベラルーシの子どもたちへの支援にも常に不安がつきまといます。さまざまな不安の中にいる子どもたちの心と体の健康回復のための保養プロジェクトをこの夏も下記のように行います。現地団体と協力しながら準備を進めているところです。

ウクライナの子どもの保養は昨年同様、同国西部の山あいにある子ども保養施設「リバー・キャンプ」で行います。昨年は近くの電力施設が攻撃されたことにより停電が起きていました。子どもたちが住んでいるジトーミル州からはバスで片道10時間ほどかかります。道中もどうか無事であるようにと願っています。

ベラルーシの子どもの保養も昨年同様、「子ども健康回復センター ナデジダ（希望）」で行います。昨年まではドイツNGOとの共同経営の施設でしたが、今年4月から国立となり、例年通りの保養ができるのか心配をしていました。しかし今のところはこれまでと変わりなく運営されており、子ども基金を含め、外国のNGO主催の保養も行われます（p.12参照）。

ウクライナ

●場所：子ども保養施設「リバー・キャンプ」
イワノフランキウスク州ミクリチン村
●期間：2025年8月21日～8月30日（10日間）
●参加予定数：子ども33人（10～17歳）
●対象：ジトーミル州オヴルチ市、ナロジチ市と周辺の村に住む呼吸器官などに慢性疾患のある子どもたち。

ベラルーシ

●場所：「子ども健康回復センター ナデジダ」
ミンスク州ビレイカ地区
●期間：2025年8月4日～8月20日（17日間）
●参加予定数：子ども32人（8～17歳）
●対象：ゴメリ州の町と村に住む内臓や血液のがんなどの重い病気の子どもたち。

2024年夏の保養の様子

ウクライナからの便り

子ども基金が行っているウクライナの子どもたちの夏のプロジェクト、里子支援、病院や学校への支援などは、ウクライナ側パートナー NGO「チェルノブイリの子どもたちの生存」を通じて行っています。代表 ザクレフスキーさんからのメールを紹介します。彼は支援先の家族、病院、学校と信頼関係を築いていて、こまめに連絡を取りながら私たちに状況を知らせてきてくれます。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

●2025 年 5 月 7 日
今日は忙しい一日だったので、夜になってから手紙を書き始めました。 キーウでは、空襲警報がほぼ丸一日（短い休憩を挟んで）発令されています。そのため、地上の公共交通機関は長時間にわたり運行中断を余儀なくされています。ドニプロ（ドニエプル）川にかかる二つの橋での地下鉄の運行は事実上停止しました。

昨日私は、保養施設「リバー・キャンプ」の責任者イリーナさんと電話で連絡をとり、今日中に保養の契約書に署名する約束をしました。私たちのオフィスはキーウの右岸にあり、彼女のオフィスはドニプロ川の左岸にあります。私は通常とは違う方法でそこに辿り着きました。まず地下鉄に乗って右岸の終点駅まで行き、それからドニプロ川にかかる橋まで歩いて行き、パトロール中の警察官の助けを借りて、通りかかった大型トラックに乗せてもらい左岸へ渡りました。 そして帰路は、警報が終了してバスの運行が再開するのを待たず、歩いて橋を渡りました（約 4 キロ）。

契約は成立し、責任者と直接会っていろいろ確認することができました。子ども基金が事前に保養費用の一部を送金してくれたおかげで、それを「リバー・キャンプ」に前払い金として振り込むことができましたので、保養プロジェクトは予定通りにできることが確実になりました。チェルノブイリ子ども基金に感謝します。

追伸 1：私たちの団体のスタッフ、ヴィターリの妻と息子はチェコに避難していますが、ここしばらくキーウの自宅に一時帰宅していました。そして彼は家族をチェコまで送り届け、今日戻ってきました。彼の住んでいる地域では、昨晩ずっと轟音が響き、低層住宅が破壊されましたので、その前に家族がチェコに戻れたのは幸いでした。

追伸 2：川の右岸から左岸へ向かう途中（キーウ都心からボリスピリ空港へ向かう交通の激しい幹線道路）、道端で今まで見たことのない美しい黄色の花を見つけましたので写真を撮りました［写真右上］。

●5 月 30 日
5 月 28 日水曜日、オヴルチ子ども芸術アカデミーは終業式でした。ニコライ校長からその時の写真が送られてきました。写真（上）は、優秀な生徒の一人に校長先生が表彰状を渡しているところです。木曜日にはナロジチ・リツェイ（学校）で終業式がありました［写真下：撮影は 6 月 4 日］。

追伸：この 1 週間キーウは記録的なロケット弾やドローン攻撃を受けました。特にキーウ左岸地域、さらに私やヴィターリの住んでいる地区では轟音が響き渡りました。しかし正直を言うと、最も激しい攻撃の間、私は熟睡していて何も聞こえませんでした。

～＊～＊～＊～＊～＊～＊～

子ども基金は以前、ウクライナの甲状腺手術後の子どもたちをウクライナ・ムィコラーイウ（ニコラエフ）州オチャコフにある保養施設に招待していました。子ども基金事務局は、当時保養に参加した何人かと今も連絡を取り合っています。

保養に参加していた一人で、戦争開始後にチェコへ、その後イギリスへ避難したオクサーナさん（30代）からのメールを紹介します。彼女はウクライナでは小学校の教師をしていました。

●2025年4月10日

私は高齢者施設で働きながら、今もイギリスで暮らしています。時々ウクライナの子どもが通っている学校にも行きますが、それは稀なことです。両親はウクライナにいます。ちょうどウクライナの真ん中あたりにある町です。そこは安全とは言えません。毎日サイレンが鳴り、爆撃はされなくても戦闘機が飛んでいきます。同じ町に、あなたも知っている友人のオーリャが住んでいます。長い間連絡をしていないのでどうしているのかわかりません。彼女の夫が重い病気だということは知っています。

あなたが私たちのことを忘れないでいてくれてうれしいです。私はよくオチャコフで過ごしたことを思い出します。あなたは私たちにたくさんの喜びと良い思い出をくれました。時々思うのです。一日でもよいからあの頃のあの場所に戻れたらよいのにと。

～＊～＊～＊～＊～＊～＊～

オクサーナさんと同じように、オチャコフでの保養に参加していたアレクサンドラさん（30代）はキーウで暮らしています。

●2025年4月16日

誕生日を祝ってくれてありがとう。キーウでの生活は続いています。戦争が終わってロケット弾やミサイルが飛んでこないようになってほしいです。

●2025年4月25日

心配してくれてありがとう。キーウは悪いニュースばかりですが、幸いにも私は大丈夫です。きっとよくなると願っています。あなたもどうぞお元気で。

～＊～＊～＊～＊～＊～＊～

子ども基金は1998年～2001年にウクライナの子ども民族合唱団「チェルボナ・カリーナ」を日本に招待し、日本各地で救援コンサートを行いました。当時の来日メンバーの一人で、現在キーウで母親と暮らしているユーラさん（30代）からは次のようなメールが届きました（一部抜粋）。

●2025年5月9日

・今年の1月、同級生の葬儀がありました。彼は昨年11月から2か月間の軍事訓練後に戦地に送られ、1か月で亡くなりました。

・私は医者にかかるなど最低限の用事以外は外出をしないようにしています。食料も水も宅配で買い物をしています。

・最近、私たちの隣の部屋に、夫婦と子ども3人の家族が引っ越してきました。夫は戦争から帰ってきた人でした。3人目の子どもが生まれたばかりで、子どもが3人いる男性は徴収されないという書類を手に入れたようでした。しかしこの男性は夜中から早朝まで大声で叫び、ものを壊したり妻に暴力をふるったりしている様子が聴こえてきました。とても恐ろしいものでした。初めは騒音についての苦情を言いに行こうと思いました。しかしその男性は戦争のために精神を病み、自分が何をしているのか理解していないということがとわかりました。私と母はしばらく我慢を強いられましたが、幸いなことに彼らは2日前に引っ越しました。

・先月は暖房もなくお湯も出ない日がありました。3日間自分たちでお湯を沸かし、10日間電気ヒーターを使いました。その後2ヶ月分の電気料金の請求書が届きました。夏には通常、温水の供給が1か月間停止されます＜ボイラー設備の点検のため＞。その間自分たちでお湯を沸かしたら、電気代がいくらになるかと考えると恐ろしいです。

・最近、私と母は体調を崩しました。同じ薬が以前より4倍値上がりしていました。もし1か月後にまた病気になったら、とても高額で薬を買うことはできません。安い薬は売り場からなくなり、新しい薬は製造されず、高価な薬だけが売り場に残ります。人々は高い薬を買うお金がありません。私たちは大体このように暮らしています。このような状況ですのでキーウへの攻撃に対して、もはや驚くことはありません。

チェルノブイリの歌声 ～絵画展来場者のみなさまから～

◆子どもたちの気持ちが絵の１つ１つの中にこめられていて、それがとても丁寧で、愛おしく、こちらに伝わってきました。

◆子どもたちへ。大人の勝手な都合で戦争を始めて、終わり方も知らない。自分の事しか考えてない大人もいるけれど、中には子どもたちの幸せを考えている人も必ずたくさんいるから、信じて生きていってね。心のこもった絵を見て、私も心が洗われました。絵を描いてくれてありがとう！（60 代）

◆絵を拝見しまして音が聞こえてまいりました。どのお子様も平和を望んでおられます。大人が勝手におこした戦争です。つらい毎日を過ごしておられると思います。怒り心頭に達しております。一刻も早い停戦を望みます。皆様に笑顔が戻りますよう願っております。身近な人々にもウクライナの方々の話をしてまいります。（東京都 70 代）

◆国土の荒廃以上に子どもたちの心は傷ついていると思います。一方、作品によって一人ひとりが今の時代の証言者になっています。彼らや彼女たちが納得できる和平の実現を願っています。（愛媛県 70 代）

◆大人は政治とかかけひきで戦争を考えているのに、子どもたちは相手に憎しみをぶつけるのではなく、幸せ、生活、美しい自然、愛が戻ってくることをひたすら希ってこんなに美しい絵を描き表現できる。不甲斐ない大人はもっと考えるべきですよね。涙が出るほど感動、そして反省です。（神奈川県 70 代）

◆平和や父親の無事を願う子どもたちの絵に胸がしめつけられます。一刻も早い平和と領土の完全な回復、そして子どもたちに幸せが戻ることを願います。（沖縄県 60 代）

◆楽しい絵だけでなく、平和な国とウクライナのように戦争で被害がある国とで対比したような絵を見た時にとても心苦しくなりました。ウクライナの土地や国民、自然がはやく平和に過ごせるようになってほしいと改めて感じました。（10 代）

◆ウクライナ侵攻は理解しているが、チェルノブイリの影響で苦しんでいる子どもたちがいることは知りませんでした。声を掛けて下さりありがとうございます。いただいた資料は良く読ませていただきます。（東京都 60 代）

◆罪もない子どもたちが傷ついているのにショックを受けました。子どもたちの多くが「医師」「先生」「保育士」「建築家」「花屋さん」と、現在の悲惨な状況を嘆くだけでなく大人になったら国の復興に貢献できる仕事に就くことを望んでいることに感動しました。彼らの目は、明るい未来を見ているのですね。早くウクライナの戦争が終わることを願ってやみません。（東京都 60 代）

◆戦禍の悲しみをのりこえて、けなげに自分の夢を紡ごうとしている子どもたちの姿勢に力づけられた。「麦わら教室」、「ガラス絵」など伝統的な芸術を継承する教室の一端に触れ、ウクライナの豊かな文化、それに育まれた子どもたちのしなやかな感性が感じられた。大人、一部の権力者の思惑で、突然平和な日々が失われてしまった人々。平和の尊さをかみしめ日常の平穏を願う。心洗われたような気分です。ありがとうございました。（東京都 70 代）

◆それぞれの子ども達の思いが直に伝わって来ました。絵を描くこと、歌うことなどが子ども達自身も、またそれを見聴きする者にも和やかなひと時になることを願ってやみません。良い展示に出会えたことを感謝するとともに一刻も早く平和が訪れることを願います。（東京都 70 代）

◆8 歳や 10 歳といった年齢の子どもの作品とは思えないほど上手で驚きました。国の違いもあると思いますが、彼らが経験したものが表れている。色遣いや構図に心を動かされました。彼らの置かれている状況と、自分の身の周りは全く違うけど、同じように絵を描くことを楽しめることは素敵なことだと思いました。（東京都 10 代）

◆ニュースを見ていてもどこか画面の向こう側の出来事のように感じてしまっていましたが、今回それぞれの作品と、顔写真、何が好きか、どんなものに興味があるのかを一緒に見ました。みんな自分と同じような普通の子達であると実感しました。この戦争で悲しむ人たちの心や体の痛みが一刻も早く良くなりますように。（東京都 10 代）

◆ウクライナの子どもたちの様々な思い、平和への希望、祖国への愛、学校を思う気持ち、不安や恐れ、素直に表現された作品はどれも心を打ちます。戦禍

の中でも、健気に生きる子どもたちに、1日も早く、平和がもたらされることを祈ります。日本にいてできることは多くありませんが、忘れないこと、平和を願い続けることが大切だと改めて思いました。このような活動を長年続けていらっしゃるチェルノブイリ子ども基金の活動には頭が下がります。この絵画展に来られて本当によかったです。（東京都 60 代）

◆こんなに小さな子どもたちが、戦争の苦しみに耐え、それでも未来になんとか希望を見出そうとする姿に胸を打たれました。空襲におびえる女の子は「一生懸命、今を生きています」と強く訴える声が聞こえてくるようです。特に「私はウクライナという国です」の絵 *（下の絵・左側）* には涙がこみあげてきました。土地は荒れ、建物や窓からは炎が吹き出しています。でも空を飛んでいるのは爆撃機ではなく大きな明るい流れ星、女の子が手を合わせて懸命に祈っている。どうかこの祈りが叶えられますように、安心して暮らせる日が1日でも早く訪れますようにと願ってやみません。

◆本当に素晴らしいの一語につきます。毎日の厳しい暮らしの中で父親は戦争に行き、その帰りを待つ母と子ども達。毎日を爆音にさらされ、どんな思いで生きていることでしょう。にも拘わらず、あざやかな色彩で表情もゆたかに力がみなぎってくるような、こんな子どもの絵にきっと親たちの方が元気を与えられ、いやされているのでは。本当に早く戦争が終わることを遠くから祈っております。絵を見せて下さり、ありがとうございました。（滋賀県 70 代）

◆なぜこんな小さな子どもたちが苦しまなければならないのかわからない。子どもたちに笑顔が戻るよう、早く戦争を終わらせてほしいのだが、トランプには無理だろうなと思う。大変な状況の中でも、子どもたちが未来のウクライナ、戦争のないウクライナを夢見て描いている絵画の数々に感動を覚えた。（北海道 60 代）

◆どのような状況でも、自然、動物、小鳥、草花を愛する子どもたちの優しさに、人類というどうしようもない存在にもまだ希望があるのだと感じました。全ての生命が平和に生きられる宇宙であってほしいと思います。

◆小さな子どもでも現在起きている戦争をそれぞれの心に受けとめ感じとって、一人一人が平和になるように祈っていてとても感動致しました。ウクライナだけでなく、世界全体が平和になって安全な場で一人ひとりが夢を歩きだせる世界になる事を願います。（埼玉県）

◆割れてしまった展示を拝見してものすごく今の状況のようで、心が痛みました。1日も早く安心が訪れますように。（茨城県 50 代）

◆「戦争」 *（下の絵・右側）* という絵の迫力が印象的だった。子どもたちが日常を過ごす家と半壊した家の壁から見える戦いの戦禍を見て、その悲惨さを感じた。（東京都 20 代）

～＊～＊～＊～＊～＊～＊～＊～＊～

【左】「私はウクライナという国です」
ヴィクトリヤ（15 歳）

ウクライナが常に繁栄した国であるように願い描いた。将来は観光ガイドになり、旅行者をウクライナの美しい場所に案内したい。

【右】「戦争」 キーラ（15 歳）

戦争が早く終わってほしいと思って描いた。家族みんなが安心して、平和に暮らしたい。

ベラルーシ　「 子ども健康回復センター ナデジダ（希望）」

ベラルーシとドイツの NGO により設立・運営された「子ども健康回復センター ナデジダ（希望）」は、昨年 2024 年 9 月に設立 30 周年を迎えました。しかしニュースレターNo.129（24 年 10 月発行）で報告したように、ナデジダの政府側と非政府側参加者たちの間にあった従来の協力関係が変更されたことにより、ドイツとベラルーシの NGO がナデジダの経営から離脱することになりました。設立当初から所長を務めていたマクシンスキーさんは昨年 10 月に辞任し、新所長には元々ナデジダの職員であったシンケヴィチさんが就任しました。その後、2025 年 4 月からナデジダは国立の施設となりました。

外国 NGO による保養プロジェクトの担当者として長年関わっている職員のオリガさんから以下の連絡がありました。

＊＊＊＊＊

「お知らせしたように、ナデジダは4月から国立の施設になりました。この間、定年退職したスタッフは何人かいますが、子どもたちとの活動や外国パートナーとの関係に何も変化はありません。今年、子ども基金を含めた外国のパートナーが主催する汚染地域の子どものための保養プロジェクトが 23 あります。私自身のナデジダの役割は、外国パートナーとの仕事以外にも新たなものが追加されました。でも私はナデジダで働けることが嬉しいので、新たな職務を喜んで果たしたいと思っています。ナデジダは私にとって大切なものなのです。

4 月 26 日には毎年のチェルノブイリイベントを行い、保養中の子どもたちとともに、政府側やビレイカの町の担当者なども参加しました。またドイツのパートナーたち、前所長のマクシンスキーさんも参加しました。彼はいまベラルーシの NGO「真のパートナーシップ」の副代表を務めています（この団体は以前ナデジダの共同経営者のひとつだった）。

子ども基金の保養プロジェクトの準備も進めています。NGO「困難の中の子どもたち」代表のポホモワさんとは頻繁に連絡を取り合っています。私たちは仲間です。ドイツのパートナーもナデジダとの協力関係の継続を約束しています。子ども基金ともこれからも協力関係を続けていきたいです。　オリガ」

4 月 26 日は、多くの人命を奪い、私たち一人ひとりの心に消えない傷跡を残した重大な悲劇を追悼する日です。 39 年前の 1986 年 4 月 26 日、チェルノブイリ原子力発電所の事故が起き、人々の生活は「事故前」と「事故後」に分かれました。この日はベラルーシだけでなく、全世界にとって特別な日となりました。チェルノブイリ事故を思い出し、事故処理にあたり大惨事を防いだ人々を思い出すために、「ナデジダ」では毎年、放射能に汚染された地域に住み、当時ナデジダに保養に訪れた子どもたちや教師、当局者、地区指導者、ベラルーシ国内外のパートナー組織の代表者、ナデジダの職員たちが参加する追悼行事を開催しています。

＊～＊～＊～＊～＊

ベラルーシの病気の子どものための保養プロジェクトが 8 月にナデジダで行われます（p.7参照）。子ども基金がドイツ NGO の協力を得て送金した保養費用は、ナデジダに無事入金されました。ウクライナのことも、ベラルーシのことも、日々不安は尽きませんが、久しぶりに少しほっとできるニュースでした。

写真左：ドイツNGO 代表とオリガさん（右側）／ 写真右：ホールの様子
2025 年 4 月 26 日

募金・救援状況

●募金状況　　2025年2月～5月　　（単位：円）

	2月	3月	4月	5月
募金件数	116	61	66	20
救援寄付金	726,448	1,076,400	194,776	97,998
保養費	142,000	65,000	24,000	6,000
里子支援	157,500	105,000	1,583,780	184,620
ウクライナ支援	161,000	84,000	67,000	3,000
ニュース購読費	72,000	28,000	14,000	8,000
イベント賛同金	0	0	1,000	0
絵画展会場募金	0	59,913	0	0
合　計	1,258,948	1,418,313	1,884,556	299,618

＊上記の他、切手のご寄付をいただきました。ありがとうございます。

●救援状況　　2025年2月～5月　　（単位：円）

＜ウクライナ＞	
◎チェルノブイリの子どもたちの生存	
子どもたちの保養費	**2,354,856**
＜ベラルーシ＞	
◎困難の中の子どもたちへ希望を	
里子支援金	**1,622,052**
緊急支援	**270,342**
◎子どもリハビリ・健康回復センター「希望」	
子どもたちの保養費	**2,302,964**

2025年版チェルノブイリ救援カレンダー 収益金　971,491円
(5/31現在)

収益はチェルノブイリと福島の原発事故により被災した子どもたちの救援のために使わせていただきます。
★上記のうち162,329円を「未来の福島こども基金」を通して福島原発事故により被災した子どもたちへの支援といたしました。　★2025年救援カレンダーを**値下げ**しました。
1部**500円**（送料別）で販売しています**（残り僅かです）**。

★募金振込口座のご案内★

いつもあたたかいご支援をまことにありがとうございます。同封の振込用紙によるお振込のほか、以下の口座へ直接お振り込みいただけますので、ご都合のよい方法をご利用ください。**※振込用紙以外でお振込の場合は、お名前、金額、ご寄付の内容のご連絡をお願いいたします。**

(1)郵便振替口座　00160-4-98316　口座名　チェルノブイリ子ども基金

(2)ゆうちょ銀行口座　店番　019　店名　〇一九店(ゼロイチキュウ店)

預金種目　当座0098316　受取人名　チェルノブイリコドモキキン

(3)三菱UFJ銀行　支店名(番号):新宿中央支店(469)

口座番号:普通　1688367　口座名:チェルノブイリ子ども基金

❤　団体名一覧　❤

（順不同・敬称略）

紙面の都合上個人名は省略させていただいております。ご寄付をいただいたみなさまに心よりお礼を申し上げます。

【2月】ストッププルトニウム神奈川連絡会、日本基督教団代々木上原教会 教会学校、川和保育園父母の会、（特非）WE21ジャパンおだわら

【3月】日本キリスト教団広島船越教会婦人会、松山古町教会婦人会

【5月】日本キリスト教団奥中山教会

～ ベラルーシの里子からの手紙 ～

Kさんへ

お誕生日おめでとうございます。あなたのお幸せをお祈りします。良き友人たちに囲まれ、明るい日々であることを、そしてご健康をお祈りします。あなたが人々にもたらした善行が、何倍にもなってあなたの元に戻ってきますように。僕と家族みんなより、心から感謝のご挨拶を申し上げます。

ヤロスラフより

Iさんへ

お祝いのメッセージとお写真をありがとうございました。ここのところ自由な時間が少なくなってしまい、お返事を書くのが遅くなってしまいました。多くの時間を勉強に使っています。もうすぐ2年生への進級試験があるのです。より良い点数が取れるように、その試験に向けてしっかりと準備しているところです。仕事のための高い専門性を身につけられるように勉強に取り組んでいきたいと思っています。両親が僕のことを誇りに思ってもらえたらと望んでいます。あなたはこの長い年月の間を通して、僕と家族にとって親族のように親しく、近しい存在になりました。僕たちへこれまでしていただいた支援のすべてに対して、あなたに感謝します。

マトヴェイより

事 務 局 か ら

●未来の福島こども基金 総会&上映会
ドキュメンタリー『奪われた村 避難 5 年目の飯舘村民』
監督 豊田直巳
8/2(土) 開始 14:00 ＊予約不要
会場:柳瀬川図書館 視聴覚室(埼玉県志木市)
主催:未来の福島こども基金 問:090-3539-7611(向井)

●「パレスチナとシリア・戦争と平和と子どもたち」
写真:森佑一、豊田直巳、イブラヒム・ガヴィ
7/2～8/4 11:00～19:00(日曜と最終日は 17:00)
会場:青猫書房(東京都北区)Tel/03-3901-4080
★上記と同じ会場で 2025 年 4 月～5 月に開催された「豊田直巳写真展 戦争と平和と子どもたち」の中、5 月 24 日のトークイベントに当基金・事務局長の佐々木が「チェルノブイリ事故から 39 年 ウクライナの子どもたちは今」というテーマで参加しました。
【1 都 3 県にお住まいの方には上 2 つのイベントチラシを同封予定です。それ以外の地域にお住まいの方でご関心がございましたら、お手数ですが別途お問い合わせ下さい。】

■「基金ニュースレター」について
ご寄付をくださった方に、使途の報告としてニュースレターをお送りしています。ニュース購読費(2,000 円／年)も募っております。印刷・発送などの経費の残金は、募金として使わせていただきます。
※ニュースレターは子ども基金のHP でもご覧いただけます。今後、郵送がご不要の方は、お手数ですが事務局までご連絡をお願いいたします。
※発送経費を節約し、なるべく多くのお金を子どもたちの保養や医薬品に活用したいと思います。長期間、ご寄付等お振込みのない場合は発送を停止させていただきます。

■ボランティア募集 ニュース発送作業(年 3 回:2・6・10 月) お手伝いいただける方を募集します。
次回は、2025 年 10 月中旬の予定です。
場所:東京ボランティア・市民活動センター(飯田橋駅ビル セントラルプラザ 10 階)
※参加ご希望の方は、前日までにメールかお電話でご連絡ください。電話は平日午前 10 時～午後 5 時。留守の場合は伝言をお願いします。

＊＊ ご協力いただいているみなさまへ ＊＊
振込用紙と領収証につきまして、みなさまにお知らせとお願いです。

すべての方に振込用紙を同封しております
事務作業の都合により、まことに勝手ながらすべての方に郵便払込用紙をお送りしております。決して募金を強要するものではありません。また、すでに通信費・寄付金を納入された方はどうぞご容赦ください。

払込取扱票のお名前・ご住所は楷書でご記入ください
郵便局からは払込取扱票のコピーが届きます。文字がかすれて判読しづらい場合がございますので、楷書でわかりやすくご記入ください。

「受領確認の葉書」をご希望の方へ
通信費・寄付金を納入された方で受領確認の連絡をご希望の方に、葉書(金額は記載せず)をお送りします。振込用紙の該当欄に印をつけてください。

「領収証」が必要な方へ
郵便局払込取扱票の「払込受領証」は公に認められる領収証です。大切に保管ください。別途領収証がご入り用の際は振込用紙の該当欄に印をつけてください。

★編集後記★
心が沈んでしまいそうなニュースが続きます。ウクライナの戦争も終わりが見えません。そのような中で救いなのは、私たち子ども基金と、ウクライナ、ベラルーシそれぞれのNGOとの信頼関係が続いていることです。日々のやり取りの中で、厳しい状況に置かれていることをひしひしと感じますが、同時に、子どもたちのために何とかやっていこうという強い気持ちが伝わってきます。少しでもそれに応えていきたいと思い、活動を続けています。これからもみなさまのご支援をよろしくお願いいたします。(事務局)

●チェルノブイリ子ども基金 ＮＥＷＳ 年３回（2・６・10 月）発行●
住所 〒177-0041 東京都練馬区石神井町 3-16-15-408
Tel/Fax 03-6767-8808
E-mail: cherno1986@jcom.zaq.ne.jp
◇ウェブサイト http://ccfj.la.coocan.jp/
◇事務局ブログ http://blog.goo.ne.jp/cherno1986jimukyoku/
＊近くブログの新アドレスへの移行を予定しています。

※当基金は任意団体のため、ご寄付は税金控除の対象とはなりません。ご了承ください。